令和２年５月１１日（月）　校長先生のお話

　新型コロナウイルスによる臨時休業が続いています。
　本当なら、毎週月曜日は、全校朝会で校長先生から全校の皆さんにいろいろなお話をするのですが、今はできません。
　でも、何かよい方法がないかと考えて、このホームページを使って、毎週皆さんにお話をすることにしました。
漢字がたくさん入っているので、お家の人に頼んで、読んでもらってくださいね。

　今日は、「母の日」の始まりのお話をします。
　昨日(5/10)は、母の日でしたね。お母さんに感謝の気持ちを表す日でした。お花の場合は、赤いカーネーションをプレゼントすることが多いですね。
　では、なぜ、５月に母の日があって、カーネーションを贈るのか、知っていますか。

　今から 100 年ぐらい前の話です。
　アメリカのアンナ・ジャービスさんという女の人が、亡くなった自分のお母さんのことをずっと忘れないようにする会をしました。
　なぜそのようなことを考えたのでしょうか。アンナさんのお母さんは、アメリカが国の中で戦争をしていた時代に「母の仕事の日」という日を作って、戦争でけがをした人たちを、敵味方関係なく助ける活動を行ったそうです。アンナさんは、自分の子供を大切に育てるだけでなく、たくさんの人の命を救おうと頑張った偉大なお母さんのことを忘れない記念の日を作りたいと思ったのです。
　そして、そのときに、お母さんが好きだったカーネーションを参加した人たちに手渡しました。カーネーションを贈るのは、これが始まりだといわれています。この時は白いカーネーションでした。
　そのあと、1908 年５月 10 日にアンナさんが勤めていた学校に 470 人の生徒と母親が集まって、「母の日」をお祝いしました。この時も参加したみんなにカーネーションが渡されました。
　この日がきっかけで、母の日にカーネーションを贈るということが世界中に広まりました。
　アメリカでは「母の日」が国民の祝日となっています。
　日本でも、少しずつ全国に広がっていって、1945 年から５月の第２日曜日が母の日になりました。
　今では、赤いカーネーションを贈るのが、一般的です。これも、アンナさんの発案によるものだそうです。お母さんが亡くなっている人は、白のカーネーション、健在（生きているということ）の人は赤いカーネーションを胸に付けることにしたのです。

　どうでしたか。
「母の日は、なぜあるのかな？」
「なぜ、カーネーションを贈るのかな？」
　知らなかったことを知って、「へえー。そうだったのか！」という気持ちをもってくれたらうれしいです。
　お話は、これで終わりです。
　今日は、午後、課題をもらう日です。家での生活が続きます。みなさんには、がまんする生活を続けてもらうことになります。でも、先生たちは、皆さんのことを大切に思って、いっしょうけんめいに課題を作りました。
どうか、コロナウイルスの病気にかからないように気を付けながら、毎日、学校に来ているつもりで学習に取り組んでください。